

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 6 部門第 3 区分
 【発行日】平成 19 年 7 月 12 日 (2007.7.12)

【公開番号】特開 2005-108240 (P2005-108240A)
 【公開日】平成 17 年 4 月 21 日 (2005.4.21)
 【年通号数】公開・登録公報 2005-016
 【出願番号】特願 2004-283794 (P2004-283794)
 【国際特許分類】

G 0 6 F 1/32 (2006.01)

【F I】

G 0 6 F 1/00 3 3 2 Z

【手続補正書】

【提出日】平成 19 年 5 月 24 日 (2007.5.24)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

入力信号から第 1 の信号特性を検知するのに応じて第 1 信号検知モードから第 2 信号検知モードに遷移するように動作し、前記入力信号から前記第 1 の信号特性とは異なる第 2 の信号特性を検知するのに応じて、前記第 2 信号検知モードから第 3 動作モードに遷移するように動作可能であるスリープ復帰回路を備えることを特徴とする装置。

【請求項 2】

前記第 1 信号検知モードにおける前記スリープ復帰回路の電力消費量が、前記第 2 信号検知モードにおける前記スリープ復帰回路の電力消費量より少ないことを特徴とする、請求項 1 に記載の装置。

【請求項 3】

前記第 3 動作モードが、装置をフルパワーモードで作動させるのに相当することを特徴とする、請求項 2 に記載の装置。

【請求項 4】

前記第 3 動作モードが第 3 信号検知モードに対応し、前記スリープ復帰回路が、前記入力信号から前記第 1 および第 2 の信号特性とは異なる第 3 の信号特性を検知するのに応じて、前記第 3 信号検知モードから第 4 動作モードに遷移するように動作可能であることを特徴とする、請求項 2 に記載の装置。

【請求項 5】

前記スリープ復帰回路が、前記入力信号から前記第 1 の信号特性を検知するように動作可能な第 1 信号検知器と、前記入力信号から前記第 2 の信号特性を検知するように動作可能な第 2 信号検知器とを備えることを特徴とする、請求項 1 に記載の装置。

【請求項 6】

前記第 1 信号検知器が前記入力信号の直流特性を検知し、前記第 2 信号検知器が前記入力信号の交流特性を検知することを特徴とする、請求項 2 に記載の装置。

【請求項 7】

前記スリープ復帰回路が、前記第 1 および第 2 信号検知モード時に、装置をスリープモードで作動させるのに対応する出力データを伝送することを特徴とする、請求項 1 に記載の装置。

【請求項 8】

前記スリープ復帰回路が、前記装置を前記第 3 動作モードで動作させている時に、前記入力信号のデータに対応する出力データを伝送することを特徴とする、請求項 1 に記載の装置。

【請求項 9】

装置を作動させる方法であって、
入力信号から第 1 の信号特性を検知するステップと、
前記入力信号から前記第 1 の信号特性を検知するのに応じて、第 1 信号検知モードから第 2 信号検知モードに遷移するステップと、
前記入力信号から前記第 1 の信号特性とは異なる第 2 の信号特性を検知するステップと
、
前記入力信号から前記第 2 の信号特性を検知するのに応じて、前記第 2 信号検知モードから第 3 動作モードに遷移するステップと
を有することを特徴とする方法。

【請求項 10】

前記第 1 および第 2 の信号特性を検知するステップが、それぞれ異なる重複していない期間中に実行されることを特徴とする、請求項 9 に記載の方法。